

情報種別: G 外秘  
会社名: 株式会社 NTT データ  
情報所有者: システム技術本部

# 統合開発クラウド サービス仕様書

## プライベートクラウド OpenStack 編

第 1.3 版

2021 年 5 月 12 日  
株式会社 NTT データ システム技術本部  
生産技術部 クラウド技術センタ

## 改訂履歴

版数	改訂日	改定項目	改定内容	改定理由
1.0	2019/05/17	初版公開	第 1.0 版を公開	サービス仕様書の可能性を向上するため、ドキュメント体系を見直した。
1.1	2020/09/23	2.1.1.サービス機能構成 3.2.3.バックアップ 5.4.1.基本方針・計画	誤字修正 記載内容統一	誤字/脱字の棚卸し
1.2	2021/01/06	2.2.3.バックアップ	バックアップリストサービス提供開始に伴う修正	バックアップリストサービス提供開始に伴い、記載内容を修正
			誤字修正	誤字の棚卸し
1.3	2021/05/12	1.1.1.情報管理	第 6 章データセンタ設備の削除に伴う記載内容修正	サービス仕様書の見直し
		2.2.3.バックアップ	バックアップリストサービスの記載を削除	
		3.2.3.バックアップ	バックアップリストサービスを提供している内容に修正	
		1.1.2.外部委託先 第 6 章データセンタ設備	記載削除	

本マニュアルは著作権上の保護を受けています。本マニュアルの一部あるいは全部について、著者からの許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。

その他、本書に掲載されている商品名、会社名などは各会社の商標または登録商標です。

本文中では、TM、(R)マークは表示していません。

統合開発クラウドのマニュアル、および本マニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

# 目次

---

## 第 1 章 基本情報 ..... 1

1.1. 提供事業者.....	1
1.1.1. 情報管理.....	1
1.2. 提供サービスの概要.....	1
1.2.1. サービス内容 .....	1
1.2.2. サービスの目的.....	1
1.2.3. サービス利用形態 .....	2
1.2.4. サービス提供形態 .....	2
1.2.5. サービス改版履歴 .....	2

## 第 2 章 提供機能(管理ダッシュボード(Horizon)) ..... 3

2.1. 提供機能の構成 .....	3
2.1.1. サービス機能構成 .....	3
2.1.2. 主要ソフトウェア .....	3
2.2. 提供機能の利用条件 .....	3
2.2.1. 機能ごとの提供時間.....	3
2.2.2. データ量.....	3
2.2.3. バックアップ.....	4
2.2.4. 利用者数.....	4
2.2.5. 同時接続数 .....	4
2.2.6. 利用環境.....	4
2.3. 提供機能の可用性.....	4
2.3.1. 機能ごとの性能.....	4
2.3.2. 機能ごとの可用性 .....	5
2.4. 提供機能の拡張性.....	5
2.4.1. ユーザカスタマイズ機能 .....	5
2.4.2. 他サービスとの連携 .....	5
2.4.3. API.....	5
2.4.4. リソース拡張方法 .....	5

## 第 3 章 提供機能(リソースプール) ..... 6

3.1. 提供機能の構成 .....	6
3.1.1. サービス機能構成 .....	6
3.1.2. 主要ソフトウェア .....	6
3.2. 提供機能の利用条件 .....	6
3.2.1. 機能ごとの提供時間 .....	6
3.2.2. データ量 .....	6
3.2.3. バックアップ .....	7
3.2.4. 利用者数 .....	7
3.2.5. 同時接続数 .....	7
3.2.6. 利用環境 .....	7
3.3. 提供機能の可用性 .....	7
3.3.1. 機能ごとの性能 .....	7
3.3.2. 機能ごとの可用性 .....	7
3.4. 提供機能の拡張性 .....	8
3.4.1. ユーザカスタマイズ機能 .....	8
3.4.2. 他サービスとの連携 .....	8
3.4.3. API .....	8
3.4.4. リソース拡張方法 .....	8

## 第 4 章 サポート..... 9

4.1. 情報通知 .....	9
4.1.1. 通知内容 .....	9
4.1.2. 通知時間帯 .....	9
4.1.3. 通知手段 .....	9
4.1.4. 通知の時間間隔 .....	9
4.1.5. サービス一時停止の通知 .....	9
4.2. 問合せ窓口(ヘルプデスク) .....	10
4.2.1. 問合せ先 .....	10
4.2.2. 対応時間 .....	10
4.2.3. 対応手段 .....	10
4.2.4. 対応言語 .....	10
4.2.5. 対応範囲 .....	10
4.2.6. 応答時間 .....	10
4.3. 障害対応 .....	11
4.3.1. 障害対応の概要 .....	11
4.3.2. 障害発生時の通知 .....	11

4.3.3. 障害からの回復 .....	11
4.3.4. 要望対応の概要 .....	11
4.3.5. 教育プログラム .....	11

## 第 5 章 サービス管理..... 12

5.1. 可用性.....	12
5.1.1. 可用性管理 .....	12
5.2. キャパシティ.....	12
5.2.1. キャパシティ管理.....	12
5.2.2. 監視・測定 .....	12
5.3. 情報セキュリティ .....	13
5.3.1. 基本方針・規定.....	13
5.3.2. 監査・診断・評価 .....	13
5.3.3. リスク管理 .....	13
5.3.4. マルチテナント.....	13
5.3.5. 情報漏えい対策 .....	13
5.3.6. アクセス管理 .....	13
5.3.7. 不正侵入防止.....	14
5.3.8. セキュリティパッチ .....	14
5.3.9. ウイルス対策 .....	14
5.3.10. 改ざん防止.....	14
5.3.11. 外部委託管理.....	14
5.3.12. 入退出管理 .....	14
5.3.13. 媒体管理.....	14
5.3.14. 情報資産保護.....	14
5.4. サービス継続性 .....	15
5.4.1. 基本方針・計画.....	15
5.4.2. 復旧体制・訓練.....	15
5.4.3. 代替システム.....	15

## 第 6 章 サービス提供・契約..... 16

6.1. サービス利用条件.....	16
6.1.1. 解約.....	16
6.1.2. 利用変更申し込み .....	16
6.1.3. サービス変更 .....	16

6.1.4. サービス終了 .....	16
6.1.5. 無料サービス .....	16
6.1.6. サービス料金 .....	16
6.1.7. 支払方法.....	17
6.1.8. 役割分担、責任範囲と補償範囲.....	17
6.1.9. 個人情報管理.....	17
6.2. サービスレベル.....	17
6.2.1. サービスレベル目標.....	17
6.2.2. SLA の扱い.....	17
6.3. 特記事項 .....	17
6.3.1. 禁止事項、免責 .....	17
6.3.2. 知的財産権 .....	17

## 第 1 章 基本情報

---

本書は統合開発クラウド、プライベートクラウド、OpenStack で提供するサービスの基本情報を提供するものである。

### 1.1. 提供事業者

---

統合開発クラウド プライベートクラウド OpenStack の提供事業者は株式会社 NTT データ(以下「NTT データ」という)である。

#### 1.1.1. 情報管理

---

統合開発クラウド プライベートクラウド OpenStack の情報の保存先は、原則、設置するデータセンタにて保存する。

情報の管理は以下のとおり。

- 統合開発クラウドの責任範囲においては、利用条件に従い管理する
- テナント管理者の責任範囲については、テナント管理者にて実施する

### 1.2. 提供サービスの概要

---

統合開発クラウド プライベートクラウド OpenStack で提供するサービスの概要を説明する。

#### 1.2.1. サービス内容

---

基本サービスの内容は以下のとおり。

- 管理ダッシュボード(Horizon)
- リソースプール

#### 1.2.2. サービスの目的

---

開発・試験で使用するサーバの実行環境として、社内の開発 LAN に接続可能な IaaS を提供し、プロジェクト毎に必要なだった構築・維持コストの削減や準備期間の短縮を実現することを目的とする。



### 1.2.3. サービス利用形態

NTT データ・NTT データ G 会社・業務委託先の各開発拠点から、NOANET・G 共通セキュリティ基盤・統合開発セキュリティ基盤など各種社内ネットワークを経由して利用する。詳細は、「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービスの接続性」に準拠する。

### 1.2.4. サービス提供形態

申請ごとに OpenStack のテナントが払い出される。テナント管理者は、管理ダッシュボード(Horizon)を利用して、リソースプールにセルフサービスで仮想リソース(インスタンス(仮想マシン)、ボリューム(仮想ディスク)、仮想ネットワークなど)を払い出し、開発環境を構築する。

### 1.2.5. サービス改版履歴

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定の「サービス改版履歴」に準拠する。

## 第 2 章 提供機能(管理ダッシュボード(Horizon))

---

統合開発クラウド ダッシュボードの提供機能について示す。

### 2.1. 提供機能の構成

---

提供機能の構成は以下のとおり。

#### 2.1.1. サービス機能構成

---

テナント管理者がリソースプール上のテナントに対して、仮想リソースの作成や管理を行える Web インタフェースを提供する。  
また、リソースプールに払い出すことができる OS のイメージをパブリックイメージとして提供する。

#### 2.1.2. 主要ソフトウェア

---

統合開発クラウド 管理ダッシュボード(Horizon)の主要ソフトウェアは、Red Hat OpenStack Platform 。

### 2.2. 提供機能の利用条件

---

提供機能の利用条件は以下のとおり。

#### 2.2.1. 機能ごとの提供時間

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定の「機能ごとの提供時間」に準拠する。

#### 2.2.2. データ量

---

規定なし。

### 2.2.3. バックアップ

テナントに払い出された仮想リソースの管理情報のみ日時でバックアップを取得している。

業務停止を伴う故障時の対応は以下とする。

- RPO(目標復旧時点) 前日バックアップ取得時点
- RTO(目標復旧時間) (平日日中帯 9:30-18:00JST):6 時間以内

上記以外はベストエフォートとする。(復旧までに 6 時間以上かかる場合あり)

- RLO(目標復旧レベル) 最終バックアップ時点から業務停止間の申請情報/構成変更情報を除く全業務

リソースプール上に格納されているデータについては、リソースプールの項目を参照。

### 2.2.4. 利用者数

利用者数制限はない。同一テナントに登録できるテナント管理者の上限数は X-UIM プロジェクトグループの仕様に依存する。

### 2.2.5. 同時接続数

規定なし。

### 2.2.6. 利用環境

利用ブラウザは Mozilla Firefox 54.0.1 以降を推奨。利用可能回線を含む NW 接続は、「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービスの接続性」参照のこと。

## 2.3. 提供機能の可用性

提供機能の可用性は以下のとおり。

### 2.3.1. 機能ごとの性能

規定なし。

## 2.3.2. 機能ごとの可用性

サービス稼働率 99.9%を目標とする。(計画停止期間は除く)

詳細は「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービス稼働率目標」参照のこと。

## 2.4. 提供機能の拡張性

提供機能の拡張性は以下のとおり。

### 2.4.1. ユーザカスタマイズ機能

責任分解点の範囲内で自由にカスタマイズ可能。

詳細は別紙、「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービス提供元・責任分界点」参照のこと。

### 2.4.2. 他サービスとの連携

認可/認証は社内システムと連携している。詳細は統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 ログインアカウント」参照のこと。

### 2.4.3. API

API は提供していない。

### 2.4.4. リソース拡張方法

リソース拡張方法はなし。

## 第 3 章 提供機能(リソースプール)

---

統合開発クラウド リソースプールの提供機能について示す。

### 3.1. 提供機能の構成

---

提供機能の構成は以下のとおり。

#### 3.1.1. サービス機能構成

---

管理ダッシュボードより作成された仮想リソースが動作する基盤を提供する。

#### 3.1.2. 主要ソフトウェア

---

統合開発クラウド 管理ダッシュボード(Horizon)と同じ。(2.1.2 主要ソフトウェア)

### 3.2. 提供機能の利用条件

---

提供機能の利用条件は以下のとおり。

#### 3.2.1. 機能ごとの提供時間

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定の「機能ごとの提供時間」に準拠する。

#### 3.2.2. データ量

---

各テナントのリソース上限範囲内においてセルフサービスで仮想リソースを作成可能。リソース上限内であっても、プライベートクラウドの利用状況によっては払い出しできない場合がある。

なお、初期リソース上限からの変更は、テナント払い出し後に開発ダッシュボードより申請を行うことが可能。

ただし、全体のリソース枯渇状況によっては、以下調整を実施する場合がある。

- 申請に対する差し戻しとして、拡張理由の確認/上限値見直し/拡張時期調整などの相談を窓口から返信する
- 実態の利用量とリソース上限値に乖離がある場合は、サービス側で実態に合わせた上限に変更する

初期リソースの詳細は、統合開発クラウドポータル「利用料金」ページを参照のこと。

---

### 3.2.3. バックアップ

バックアップリストアサービスを提供している。

詳細は、以下のサービス仕様書、マニュアルを参照のこと。

「統合開発クラウド サービス仕様書 バックアップ・リストアサービスサービス仕様」

「統合開発クラウド マニュアル バックアップリストアサービス編」

### 3.2.4. 利用者数

利用者数の規定はない。

### 3.2.5. 同時接続数

規定なし。

### 3.2.6. 利用環境

作成したインスタンスの仕様に依存する。

NW 接続性は「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービスの接続性」参照のこと。

## 3.3. 提供機能の可用性

提供機能の可用性は以下のとおり。

### 3.3.1. 機能ごとの性能

テナントのリソース上限値内で、仮想リソースを利用可能。

ただし、物理リソースは全テナントで共有しており、予約値を設定することはできない。

### 3.3.2. 機能ごとの可用性

サービス稼働率 99.9%を目標とする。(計画停止時間は除く)

詳細は「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービス稼働率目標」参照のこと。

## 3.4. 提供機能の拡張性

---

提供機能の拡張性は以下のとおり。

### 3.4.1. ユーザカスタマイズ機能

---

責任分解点の範囲内で自由にカスタマイズ可能。

詳細は別紙、「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービス提供元・責任分界点」参照のこと。

### 3.4.2. 他サービスとの連携

---

他のサービスと連携はない。

### 3.4.3. API

---

API は提供していない。

### 3.4.4. リソース拡張方法

---

提供機能(リソースプール)、仕様項目、データ量の項目を参照。

## 第 4 章 サポート

---

統合開発クラウド プライベートクラウド OpenStack で提供するサポートについて示す。

### 4.1. 情報通知

---

サポートの情報通知は以下のとおり。

#### 4.1.1. 通知内容

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の規定に準拠する。

#### 4.1.2. 通知時間帯

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の規定に準拠する。

#### 4.1.3. 通知手段

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の規定に準拠する。

#### 4.1.4. 通知の時間間隔

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の規定に準拠する。

#### 4.1.5. サービス一時停止の通知

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の規定に準拠する。



## 4.2. 問合せ窓口（ヘルプデスク）

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定の「問い合わせ窓口（ヘルプデスク）」に準拠する。

### 4.2.1. 問合せ先

問合せ先については、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の規定に準拠する。

### 4.2.2. 対応時間

問合せの対応時間については、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の規定に準拠する。

### 4.2.3. 対応手段

問合せの対応手段については、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の規定に準拠する。

### 4.2.4. 対応言語

問合せの対応言語については、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の規定に準拠する。

### 4.2.5. 対応範囲

問合せの対応範囲については、「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービス提供元・責任分界点」規定に準拠する。

### 4.2.6. 応答時間

問合せの応答時間については、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の規定に準拠する。

## 4.3. 障害対応

---

障害対応は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

### 4.3.1. 障害対応の概要

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定の「障害対応の概要」に準拠する。

### 4.3.2. 障害発生時の通知

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

### 4.3.3. 障害からの回復

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

### 4.3.4. 要望対応の概要

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

### 4.3.5. 教育プログラム

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

## 第 5 章 サービス管理

---

統合開発クラウド プライベートクラウド OpenStack で提供するサービス管理について示す。

### 5.1. 可用性

---

サービス管理の可用性は以下のとおり。

#### 5.1.1. 可用性管理

---

管理ダッシュボード (Horizon)

- ・原則、数分～数十分で自動的に正常なノードへ切り替わる。※HW の 1 重故障までを自動復旧対象とする。

リソースプール

- ・故障対象のノードを切り離して、縮退状態でサービスを継続可能。ただし、故障したノードで稼動しているユーザ VM は、6 時間以内 (目標復旧時間内) に起動可能な状態まで復旧する。

### 5.2. キャパシティ

---

サービス管理のキャパシティは以下のとおり。

#### 5.2.1. キャパシティ管理

---

統合開発クラウドのサービスのキャパシティ管理は、「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービス提供元・責任分界点」に準拠する。

テナント管理者の責任範囲については、テナント管理者にて実施する。

#### 5.2.2. 監視・測定

---

統合開発クラウドのサービスの監視、測定は、「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービス提供元・責任分界点」に準拠する。

## 5.3. 情報セキュリティ

サービス管理の情報セキュリティは、NTT データの「情報セキュリティポリシー（規程）」に準ずる。

詳細は「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 情報セキュリティ」参照のこと。

### 5.3.1. 基本方針・規定

統合開発クラウドの情報セキュリティの基本方針・規定は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.2. 監査・診断・評価

統合開発クラウドの情報セキュリティに関する監査・診断・評価は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.3. リスク管理

統合開発クラウドの情報セキュリティのリスク管理は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.4. マルチテナント

統合開発クラウドのマルチテナントについては、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.5. 情報漏えい対策

統合開発クラウドの情報漏えい対策は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.6. アクセス管理

統合開発クラウドのアクセス管理は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.7. 不正侵入防止

統合開発クラウドの不正侵入防止は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.8. セキュリティパッチ

統合開発クラウドのセキュリティパッチは、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.9. ウイルス対策

統合開発クラウドのウイルス対策は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.10. 改ざん防止

統合開発クラウドの情報セキュリティに関する改ざん防止は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.11. 外部委託管理

統合開発クラウドの外部委託管理は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.12. 入退出管理

統合開発クラウドの入退出管理は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.13. 媒体管理

統合開発クラウドの媒体管理は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

### 5.3.14. 情報資産保護

統合開発クラウドの情報資産保護は、「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」の「情報セキュリティ」規定に準拠する。

## 5.4. サービス継続性

---

サービス管理に関する継続性は以下のとおり。

### 5.4.1. 基本方針・計画

---

統合開発クラウドの責任範囲においては、「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービス提供元・責任分界点」規定に準拠する。

テナント管理者の責任範囲については、テナント管理者にて実施する。

なお、セルフサービスでスナップショットの取得・リストアが可能である。ただし、復旧はスナップショットを基に新規インスタンスを作成することとなる。

### 5.4.2. 復旧体制・訓練

---

統合開発クラウドの復旧体制、訓練は、「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービス提供元・責任分界点」規定に準拠する。

テナント管理者の責任範囲については、テナント管理者にて実施する。

### 5.4.3. 代替システム

---

統合開発クラウドの代替システムは、「統合開発クラウド サービス仕様書 別紙 サービス提供元・責任分界点」規定に準拠する。

## 第 6 章 サービス提供・契約

---

統合開発クラウド プライベートクラウド OpenStack で提供するサービス提供・契約について示す。

### 6.1. サービス利用条件

---

サービス利用条件は以下のとおり。

#### 6.1.1. 解約

---

統合開発クラウドヘルプセンターに申請する。

#### 6.1.2. 利用変更申し込み

---

変更可能な項目は統合開発クラウド 開発ダッシュボードから行う。

#### 6.1.3. サービス変更

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

#### 6.1.4. サービス終了

---

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

#### 6.1.5. 無料サービス

---

開発ダッシュボード単位で定義する。詳細は統合開発クラウドポータル「利用料金」ページを参照する。

#### 6.1.6. サービス料金

---

開発ダッシュボード単位で定義する。詳細は統合開発クラウドポータル「利用料金」ページを参照する。

### 6.1.7. 支払方法

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

### 6.1.8. 役割分担、責任範囲と補償範囲

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

### 6.1.9. 個人情報管理

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

## 6.2. サービスレベル

サービスレベルは以下のとおり。

### 6.2.1. サービスレベル目標

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

### 6.2.2. SLA の扱い

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

## 6.3. 特記事項

サービス利用の特記事項は以下のとおり。

### 6.3.1. 禁止事項、免責

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。

### 6.3.2. 知的財産権

「統合開発クラウド サービス仕様書 共通編」規定に準拠する。